

- ・清内橋下流左岸に残っている中州を撤去してほしい。

中州は河道内の樹木と同様、洪水の流勢の緩和などの治水機能、生態系の保全、良好な景観形成などの環境機能などを有していますが、洪水時における水位上昇などの治水水上の支障となる一面も持っています。

清内橋周辺の中州については、周辺の洪水に対する流下能力は十分に確保されていることから、中州に治水上の支障はなく、その治水上の必要性からの中州の撤去は予定していません。

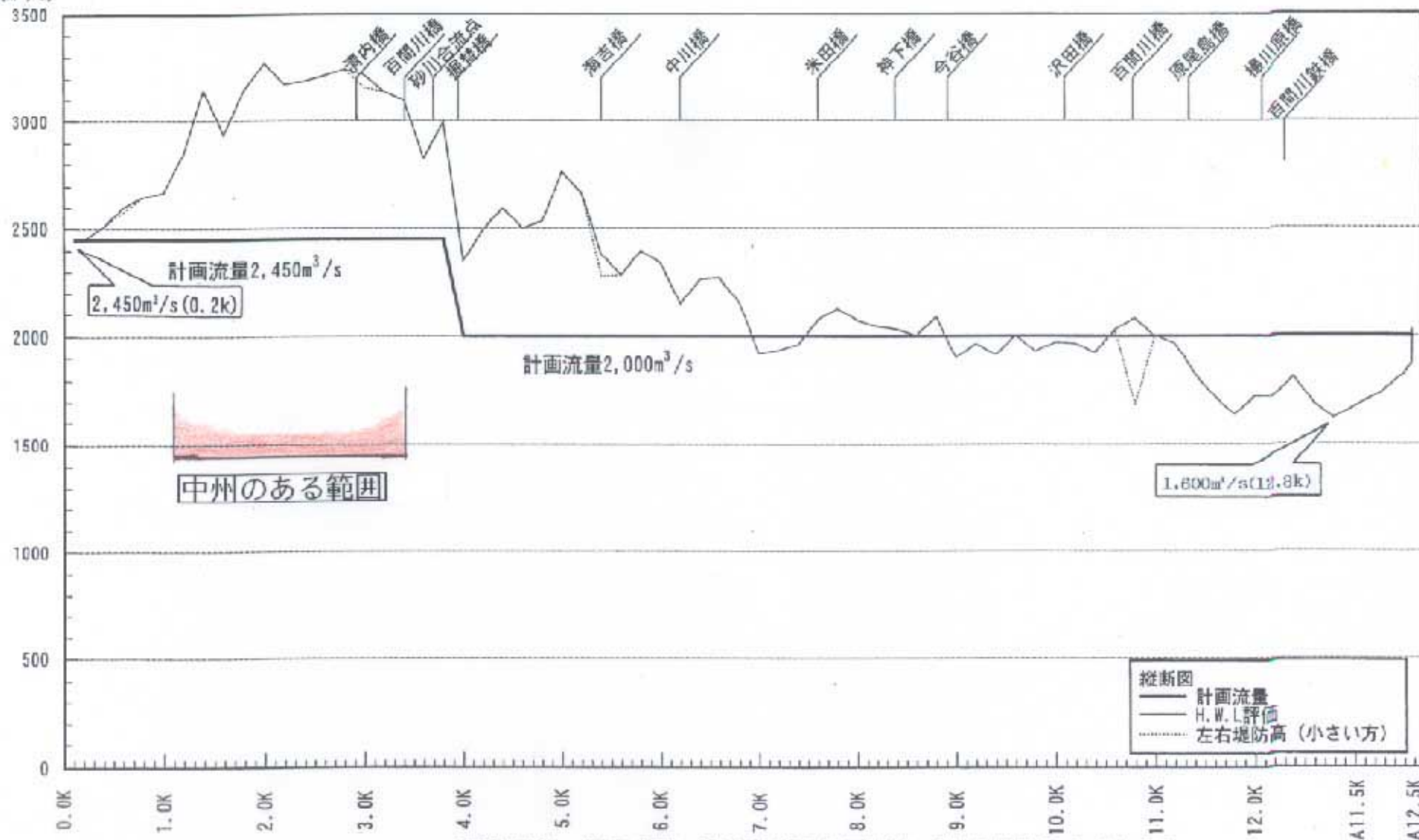
当該場所は、様々な生物の生息場所として存在しており、生態系の保全からも貴重な環境を有している場所だと考えるため、むしろ、今後、自然環境の面から周辺の有効活用のために活用できる場所であると思われます。(百間川の下流域は、かつてはオニバスの日本一の自生地として知られていました。)

(参考)

オニバスは、直径2m余りにもなる大きな葉をもつ一年生の水草。1923年には国の天然記念物として指定。夏から秋にかけて大きな葉が水面に浮かぶ。

項 目		オニバスとの関連
水	水温	生長条件（高水温に生長が大きい）
	PH	自生条件（中性でないと発芽しない）
	COD	有機汚濁の指標（汚濁が進むと生育できない）
温	総窒素	富栄養化の指標（中栄養ないし富栄養の水域に生育するが、富栄養化が進みすぎると生育できない）
	総リン	
底	ORP	酸化・還元状態の指標（還元状態が強いと根に害がある）
	強熱減量	有機物量の指標（有機物が多いと底質が還元状態になりやすい）
質	総窒素	栄養条件（オニバスは根から栄養分を吸収する）
	総リン	

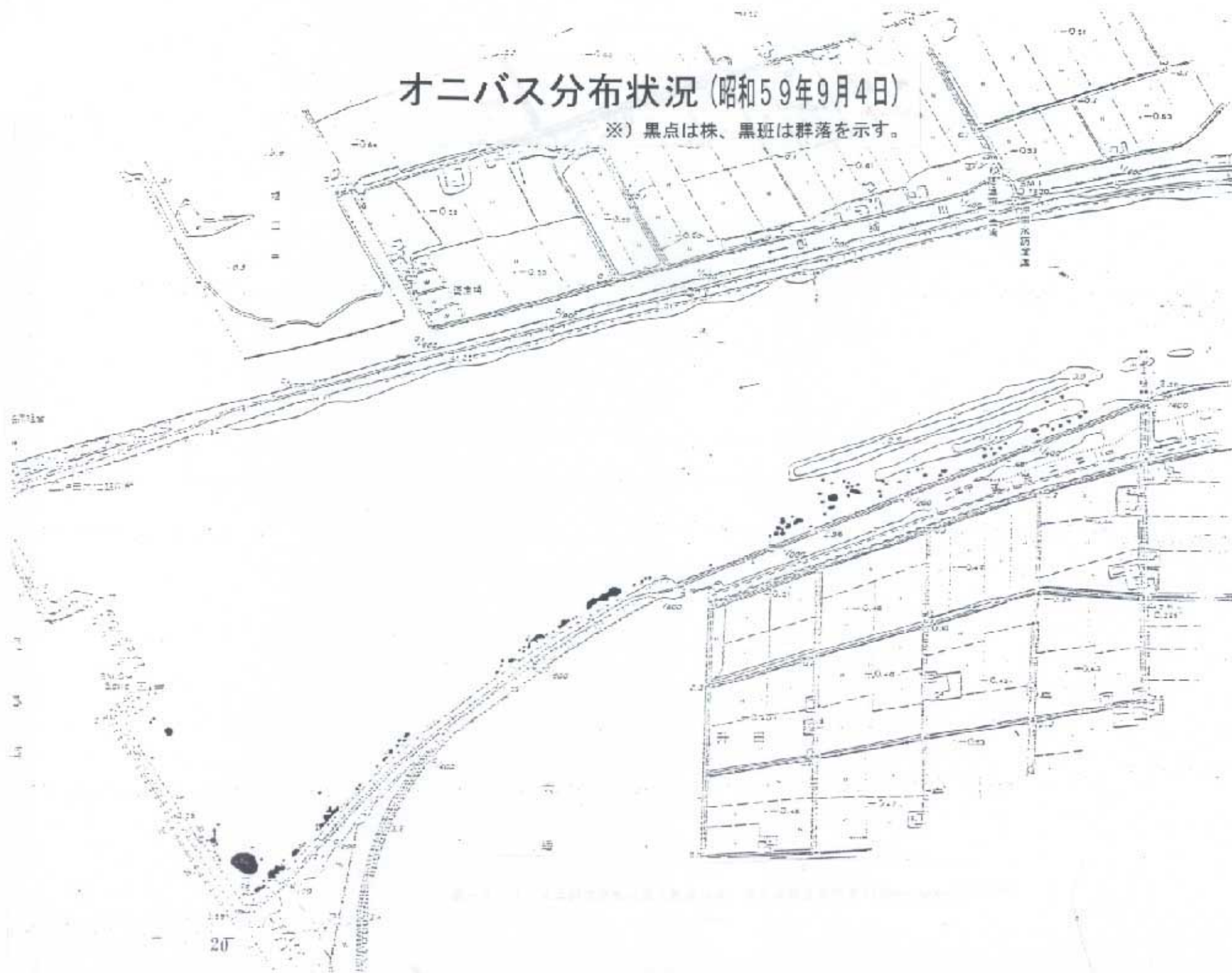
流量
(m^3/s)



現状河道，河口水門：暫定改築の流下能力（左右岸別の小さい方）
 暫定改築：計画流量流下時の水門のセキ上げをH.W.L.に収める
 一 出発水位：河口市H.W.L. T.P+2.45m

オニバス分布状況 (昭和59年9月4日)

※) 黒点は株、黒班は群落を示す。



内山氏が撮影された百間川の生物



ミサゴ



ミサゴ



オオタカ



ノスリ



ウ



ユリカモメ

撮影場所: 百間川

内山氏が撮影された百間川の生物



ダイサギ



チュウサギ



コサギ



タゲリ



バン



オオヨシキリ

撮影場所: 百間川

内山氏が撮影された百間川の生物



カルガモ



マガモ



ヒドリガモ



ツリスガラ



セッカ



コムクドリ

撮影場所: 百間川

内山氏が撮影された百間川の生物



カワセミ



オニバス